みやび展

作品のみどころ

ー朝日森天満宮特別出展ー

《竹取物語絵巻》

今はむかし竹とりのおきなといふもの有けり
野山にましりて竹をとりつつ万のことにつかひ
けり名をはさぬきの宮つことなむいひける…

《竹取物語絵巻》　上巻・絵１（巻頭）　朝日森天満宮所蔵

《竹取物語絵巻》　下巻・絵４　朝日森天満宮所蔵

《竹取物語絵巻》

この絵巻は、平安時代初期に成立したとされる日本最古の物語『竹取物語』を美麗な詞書と絵であらわしたものです。

制作は江戸時代と考えられます。詞書の料紙には金泥で草花を描き、裏も金砂子を散らした豪華な装飾です。

絵は繊細華麗な彩色と画風で、人物描写や顔貌の描き分け、やまと絵風の自然景などから住吉派の絵師が想定されます。物語を俯瞰する整理された構図、着物の緻密な文様表現をはじめとした細部描写、物語の経過とともに移ろう庭の草木の四季表現など、絵師の細やかな感性と技量が発揮されています。

伝来の詳細は不明ですが、かぐや姫の物語には天女の羽衣説話とのかかわりがあり、菅原道真にも誕生譚のひとつに滋賀県余呉の羽衣伝説があります。道真の逸話との関連性から『竹取物語』を題材とした絵巻が天満宮へ奉納されたとも考えられます。

《竹取物語絵巻》　中巻・絵６　朝日森天満宮所蔵

絵巻で読む『竹取物語』

《竹取物語絵巻》は上中下の３巻からなり、上巻は絵７図、中巻は絵６図、下巻は絵７図、計２０図の挿絵を有します。各巻に１図ずつ見開き絵に相当する挿絵が含まれるなど、本紙の形状からは絵入り写本の形跡がうかがえます。

『竹取物語』のあらすじは、かぐや姫の生い立ち、五人の貴公子（石作皇子・車持皇子・阿部右大臣・大伴大納言・石上中納言）と帝の求婚、かぐや姫の昇天となり、物語の結末は富士山の話です。絵巻の構成は下記の通りです。

上巻：かぐや姫の生い立ち～車持皇子の話
中巻：阿部右大臣～石上中納言の話
下巻：帝の求婚～かぐや姫の昇天、富士山の話

各巻の最後の挿絵は、それぞれ車持皇子・石上中納言・帝の話の顛末を描いており、３巻構成の巻末を意識した場面選択がなされているようです。

《竹取物語絵巻》　上巻・絵３　朝日森天満宮所蔵

《竹取物語絵巻》　上巻・絵６　朝日森天満宮所蔵

《竹取物語絵巻》　中巻・絵１　朝日森天満宮所蔵

《竹取物語絵巻》　中巻・絵３　朝日森天満宮所蔵

《竹取物語絵巻》　下巻・絵３　朝日森天満宮所蔵

《竹取物語絵巻》　下巻・絵６　朝日森天満宮所蔵